

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第51号 [2010年4月~5月号]

2010 青山学院大学

No. 51

広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

伊藤 定良 学長 × 土山 實男 副学長 特別対談

大学のグローバル化が進むなかで 青山学院大学が行うべきこと そして、担うべき役割

進路・就職支援について

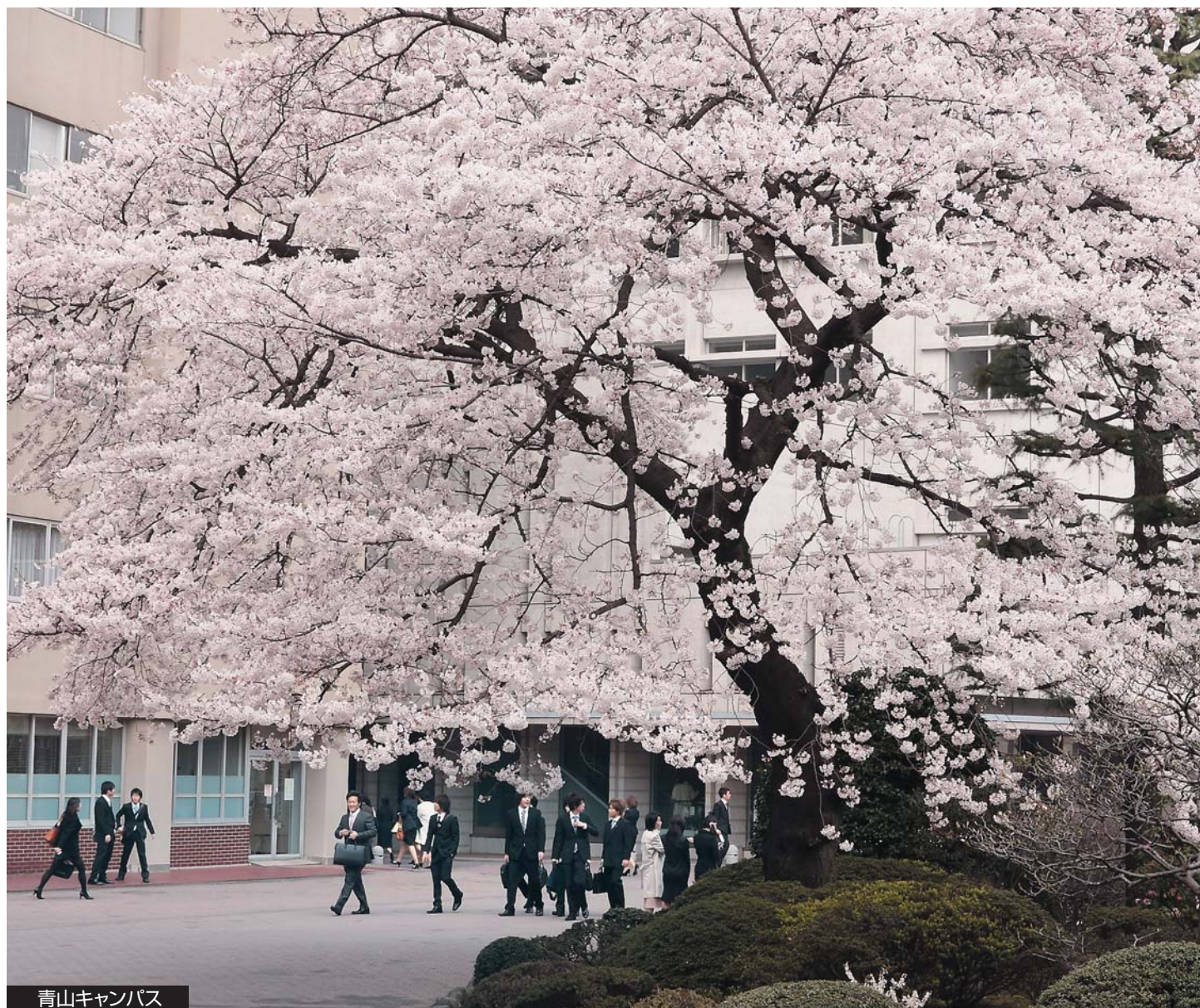
進路決定状況 / 進路・就職支援のプロセス ほか

TOPICS 平成19年度文部科学省「現代GP」採択事業 最終成果報告
技術士第一次試験・機械部門に機械創造工学科の3年生32名が合格

報告・お知らせ レスリング部 尾曲伸乃祐君が天皇杯全日本選手権で3位入賞
2010年度 学年初頭行事について(抜粋)
卒業生へのメッセージ
募金事務局からのお知らせ

誌上公開講座 青山スタンダード テーマ別科目 キリスト教理解関連科目
「聖書の中の女性たち(旧約)」

INFORMATION 2010年度 青学オープンカレッジについて
2010年度 一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数



青山キャンパス



学長
伊藤 定良



副学長
土山 實男

大学のグローバル化が進むなかで 青山学院大学が行うべきこと そして、担うべき役割

特集

国際社会への貢献は、青山学院の使命

伊藤 青山学院は、米国メソジスト監督教会が派遣した宣教師によって設立され、昨年、創立135周年の記念式典を挙行いたしました。メソジスト監督教会のまいた種が、長い年月を経て青山学院大学という実を結んだわけです。本学は、生まれながらにしてグローバルな視野のもと、国際社会に貢献する使命を背負っていると考えられます。キリスト教信仰にもとづき、「地の塩、世の光」をスクールモットーとしていることも、世界や国際社会への貢献を意識したものだと言えます。

土山 確かに、創立以来、近代的・普遍的な理念と価値を追求してきた本学院のプロテスタント精神がもっている真面目で、儉約的で、勤勉な姿勢が、明治以後の近代日本が求めた生き方と合っていたように思いますね。

伊藤 こうした時代の流れのなか、本学やアメリカで学んだ後、日本あるいは韓国・台湾などで経済界やキリスト教界のリーダーとなった人材が数多くおられます。また、創立当時から長い間、本学で教鞭を執られた先生方の多くはアメリカからの宣教師で、多くの授業が英語で行われました。本学が「英語の青山」と呼ばれている背景にはこうした伝統と歴史があるのです。

土山 この135年のあいだに本学院には、三つの波があったように思います。まずいろいろな苦難を乗り越えなければならなかった明治から戦前にかけての「第一の波」。戦後は新制大学となって経済成長とともに発展した「第二の波」。そして現在、大学のグローバル化という「第三の波」が押し寄せています。本学は国際社会からグローバル化という挑戦を受けているのです。

伊藤 確かにそうですね。21世紀のグローバル社会のなか、本学は今一度、教育方針の原点に立ち戻るべきなのかもしれません。本学の原点そのものが、広く世界を見据えた理念になっているわけですから。それらを踏まえ、各国・地域に対して、本学の存在をもっと広くアピールし、強めていくことが必要となってくるでしょう。

土山 本学には英語、国際、キリスト教、そして青山というブランド力があります。しかし、それは

あくまでも国内でのブランド力です。いま本学に必要なものは、国際社会でも通用するブランド、いわば「グローバル・ブランド」です。

伊藤 数年前、本学に通う中国からの留学生と話をする機会がありました。英米文学科に所属している彼女が、留学先に本学を選んだ理由は「英語の青山」と聞いたから」と言うのです。将来は日中の貿易に携わる仕事に就くことが目標とのことですが、本学で英語を学ぶことで中国語、日本語、英語の3か国語を身につけたいという強い意志を持っていました。そんな志の高い海外の学生に選ばれる魅力が、本学にあると思うとうれしく感じます。そして、さらにもっと広い世界中の学生から選ばれる大学になるために、もう一段階成長する必要があると痛切に感じました。

海外交流のネットワークを拡大するために

伊藤 本学のようにメソジスト系の大学は世界中に数多くあり、こうした大学との重点的な交流も必要だと考えています。2月初旬に、本学と縁の深いアメリカのデポー大学の、ケーシー学長が本学を訪問されました。同大は本学の協定校ですが、今後さらなる提携の充実を確認し合いました。また、韓国の梨花女子大学は本学院初代院長のマクレイ先生らの支援によって開学された大学ですが、2008年に李学長が本学に見えたときに、お互いの交流を強化しようとの話し合いが行われています。

あくまでも個人的な構想ですが、例えば、これら3校を結ぶ協定によって国際交流ができないものかと。それぞれ共通した教育理念を持つメソジスト系の大学として、より深い連携が実現し、単なる宗教的なつながりを超えた、新しい大学の在り方が見えてくるのではないかと思うのです。本学、デポー大学、梨花女子大学の3大学間連携のなかで、日本、アメリカ、韓国といった3つの国の文化交流が発生するわけですから。

土山 本学のグローバル化に向けて、そういう新しい努力が必要ですね。近年、日本の企業は「ガラパゴス化」していると言われます。つまり、日本の企業は日本でしか売れないモノを作っていると批判されているのです。しかし、これは必ずしも企業だけの問題ではありません。大学も同じで、日本という「マーケット」でしか通用しない大学になっているところがあるのではないのでしょうか。今こそ視野を世界に広げて、「ガラパゴス化」から脱却し、世界に通用する大学教育プログラムを作らなければなりません。

伊藤 本学がさらなるグローバル化をするためには、海外の大学との連携とともに、留学生数の増大が不可欠になってきますね。

土山 その通りです。現在、日本には約13万人の留学生が学んでいます。世界にいま約300万人の留学生がいる時に、日本の大きさや世界でのポジションを考えると、この13万人という留学生数は少なすぎますし、本学を含めてほとんどの大学がせいぜい数百人の留学生しかないという現実日本の深刻な問題です。

グローバル化の時代と言われる21世紀。

国際社会に目を向けずして、大学の進化はありません。

本学でも海外協定校の充実や、留学生を通じた交流の活性化など、

グローバル化に向けた積極的な取り組みがスタート。

昨年「青山学院大学グローバル化」を推進するためのプロジェクトチームも発足しました。

同プロジェクトチームの委員長を務める伊藤定良学長、並びに副委員長の土山實男副学長に、

グローバル化時代における本学の役割や取り組みについて、具体的な話を聞きました。

伊藤 留学生の受け入れについては、本学でも今後、さらに積極的に取り組んでいくつもりです。まずは現在70校あまりの海外協定校を100校レベルに増やしたいと考えています。協定校が増えれば、留学生の受け入れだけではなく、本学から海外に留学する学生も増えるはずです。

土山 協定校の拡大に関しては、伊藤学長にもいろいろお願いをしています。

伊藤 昨年の6月、オックスフォード大学の創立記念祭があり、本学のチェン・ポール先生の力添えて日本からは東京大学総長と私が招かれました。その際にリンカーン・カレッジのラングフォード学長とお会いし、大学間協力の話をして、本学院の135周年記念式典にご招待すると、快くご承諾くださったのです。そこでは教員や学生の交流に加え、お互いの聖歌隊が交流するプランなども話されました。共にジョン・ウェスレーに関係の深い大学として新たな国際交流のかたちが生まれることを期待したい。国際交流と言っても、基本は人と人とのつながりです。そこから大学同士の交流に発展することもあり、私もできる限り努力したいと考えています。

土山 今後はアメリカやイギリスだけに偏らない、より幅広い国々との連携も必要になりますね。

伊藤 その通りです。アジアとの交流は、この10年ほどのあいだに進んできましたが、まだまだ不十分ですし、それ以外の地域との交流はこれからの感があります。

土山 本学のとくに大きな課題は、英語圏以外の地域ですね。例えば、旧東ヨーロッパとの交流がこれまでほとんどありませんでしたが、つい最近、名門ブダペスト大学やワルシャワ工科大学との協定ができましたし、2月10日にはブラジルのサンパウロメソジスト大学と、南米では初めて、一般協定を結びました。またドイツとのあいだでは、2月24日に前みち子デュッセルドルフ大学元副学長が来校されて本学との協定が結ばれ、3月18日にはケルン大学学長が来校されて協定が結ばれました。ミュンスター大学とも協定ができましたし、デュッセルドルフ大学には本学のリエゾンオフィスを開くことをお願いしていますので、近い将来デュッセルドルフは本学のドイツの拠点になると思います。



伊藤 協定校をより広い地域に広げることで、学生の選択肢も増え、世界に視野を広げることが増えることが期待できます。今もさまざまなリエゾン活動を揃えている留学プログラムですが、今後さらなる整備が必要と考えています。

青学グローバル化プロジェクト始動

伊藤 グローバル化への対応は、今の執行部ができた時から、いろいろと構想を練ってきましたが、昨年、法人と大学が一体となって青山学院大学グローバル化を目指したプロジェクトチームを立ち上げました。この取り組みは、私が委員長、土山先生が副委員長を務めます。

土山 このプロジェクトチームでは、海外協定校拡充や本学の学生派遣支援、さらには海外広報・海外拠点開設など、本学のさらなるグローバル化に向けて、7つのワーキング・グループが動いています。また、日本政府の「グローバル30」に代わる新規事業計画が間もなく発表されるので、この新規事業に本学も積極的に取り組む準備をしています。

伊藤 一方で、グローバル化推進の一環として、昨年の10月1日に台湾の台北市にある淡江大学台北キャンパス内に「台湾サテライトオフィス」、韓国ソウル市の慶南大学ソウルキャンパス内に「韓国リエゾンオフィス」を設置しました。2010年度は具体的にこれらを活用する予

定です。

土山 上海師範大学にも間もなくリエゾンオフィスが開設されますし、先程の梨花女子大学、タイのタマサート大学にも開設の運びで、モンゴルにも事務所の設置を計画しています。これらが本格的に動き出すとグローバル化の大きな力になるでしょう。世界をつなぐという意味で、本学を国際交流の拠点にしていきたい。他大学にはない、本学ならではのグローバル化をプロジェクトを通じて明確にしていければと思っています。結局のところ、それは本学が誰に何をどう教えるかということでもあります。

伊藤 車のエンジンでハイブリッド化が流行していますが、教育研究にも「ハイブリッド」が必要ではないでしょうか。つまり、国境を越えたさまざまな歴史や文化の交流を進めるなかで、真の国際的センスをそなえた人間を育成できると思うのです。最近の研究では、共同研究や対話を通してレベルアップを果たしたり、大きな成果をあげたりすることが一般的になってきています。21世紀が「文化の時代」「文化交流の時代」であるとするれば、そのなかにおいて、本学が国際社会に貢献していけるのであれば、本当に誇らしいことです。青学の伝統と歴史のなかには、それが可能なだけの大きな「財産」があります。これからも国際化・グローバル化の推進を本学の大きな柱とし、これまで以上に社会に貢献していく所存です。

青山学院大学の進路・就職支援について

近年、多くの企業は経営環境の厳しさや労働市場の流動化を背景に、新卒採用の厳選化を進めています。かつては数年かけての社内教育を経て自立した社員を育成してきましたが、近年では教育期間を短縮し、すばやく仕事を理解し応用できるだけの基礎学力を持つ学生を選別しようとしています。このため、エントリーシートや面接で「大学時代に学業面で力を入れてきたこと」を詳細に質問しています。主体的に授業に参加し、課題や問題解決に向け取り組む姿勢が重要となってきています。

2009年3月卒業の本学学生は、世界同時不況発生時には既に多くが就職先を決定していたため、一部の内定取消を別にすると、不況による影響は軽微で、高水準の就職率を維持できました。しかし、2010年3月卒業予定の4年生の就職活動は大変厳しい状況にあります。年明けになって初めて進路・就職センターを訪れ、卒業後の方向性や留年の可能性を相談するケースも増えてきました。

4年生に対しては、5月、7月、10月に学内企業セミナーを実施し、直接本学への採用意欲の高い企業の人事担当者から説明を受ける機会を設けました。

これらは、その場で次の面接につながるまたとないチャンスとなります。また、本学に寄せられた求人票の、Webによる検索方法などを説明したり、現状の就職活動について進路・就職センタースタッフに相談する緊急ガイダンスを12月に実施しました。進路・就職センターでは、4年生の進路・就職支援を最後まで続けてまいります。就職活動中の学生には、卒業後も利用できる登録を促し、バックアップ体制を整えております。

以下に、本学の学生に対する進路・就職支援体制をご紹介します。

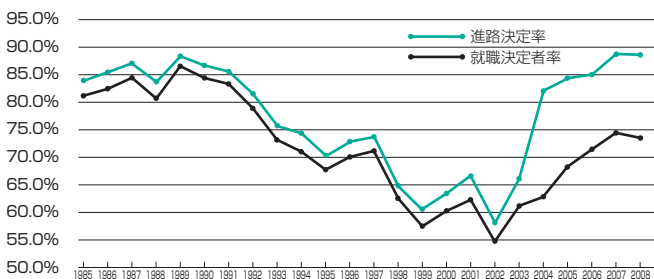
1. 個別相談

学生一人ひとりの「納得できる進路選択」を目指し、全スタッフで個別相談に取り組んでいます。相談内容は進路就職支援システムに入力し、次の相談時に誰でも対応できるよう配慮しています。相模原キャンパスで1・2年次に入力された内容を、青山キャンパスで引き続き3・4年次に活用することができます。就職部長も、週1回、予約制で相談時間を設けています。

2. 進路・就職支援行事の開催

1・2年から進路への意識を深めるため、OB・OGによる講演やキャリアデザ

進路決定率・就職決定率推移 (1985~2008年度)



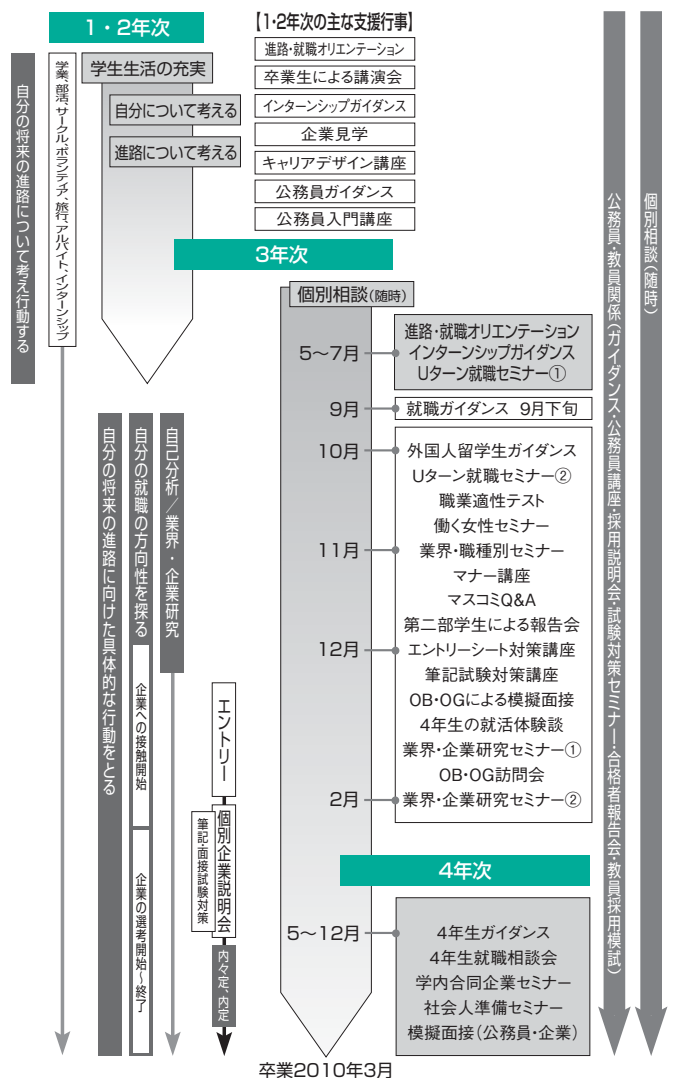
就職者数 上位20社 (2009年3月卒業生)

人文・社会科学系 (男子)			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
(株)みずほ銀行	24	日本通運(株)	6
(株)三井住友銀行	9	大和証券(株)	5
野村證券(株)	9	(株)りそな銀行	5
(株)ペイカレント・コンサルティング	8	日興コーディアル証券(株)	5
日本生命保険(相)	7	(株)セブテーニ・ホールディングス	5
明治安田生命保険(相)	7	(株)ヨドバシカメラ	5
日本興亜損害保険(株)	7	(株)ワークスアプリケーションズ	5
アビームコンサルティング(株)	7	凸版印刷(株)	5
(株)セブニー・イレブン・ジャパン	6	東京海上日動火災保険(株)	4
大日本印刷(株)	6	(株)エイチ・アイ・エス	4

人文・社会科学系 (女子)			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
(株)みずほ銀行	44	大和証券(株)	11
(株)三菱東京UFJ銀行	42	(株)JTB首都圏	11
全日本空輸(株)	31	(株)エイチ・アイ・エス	10
(株)三井住友銀行	29	(株)日本航空インターナショナル	10
日本生命保険(相)	19	野村證券(株)	9
東京海上日動火災保険(株)	18	郵便局(株)	8
三井住友海上火災保険(株)	18	アリカンファミリアフィアアサカハニオアポリス	8
(株)損害保険ジャパン	14	三菱UFJ信託銀行(株)	8
明治安田生命保険(相)	12	第一生命保険(相)	8
ソフトバンクモバイル(株)	12	(株)ゆうちょ銀行	7

理工学部、理工学研究科 (男子・女子合計)			
企業名	就職者数	企業名	就職者数
キャノン(株)	14	野村総合研究所	6
(株)日立製作所	11	NECソフト(株)	5
(株)リコー	11	富士通(株)	4
日本電気(株)	9	ソフトバンクモバイル(株)	4
(株)ブリヂストン	8	NTTコムウェア(株)	4
ソニー(株)	8	東海旅客鉄道(株)	4
本田技研工業(株)	7	(株)NTTデータ	4
トヨタ自動車(株)	7	富士ゼロックス(株)	4
(株)CSKホールディングス	6	パナソニック(株)	4
日本ユニシス(株)	6	昭和シェル石油(株)	4

進路・就職支援のプロセス (2009年度実績)



進路の報告

卒業・修了が決定したみなさんへ 進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)

Web Ashで入力、もしくは進路・就職センターへ「進路届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科、社会情報学研究所社会情報学コース)

Web Ashで入力、もしくは学生支援ユニット進路グループへ「進路届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただけます。

イン講座、インターンシップの説明会などを実施します。多様な進路に対応すべく、公務員・教員を目指す学生への行事にも力を入れています。対象別としては、外国人留学生、Uターン、外資系、マスコミ、航空業界希望者へのセミナー等を組み、3・4年次は約400社もの優良企業人事担当を招いて、学内での採用説明会を実施しています。

3. Web Ashの運用

進路・就職センター、進路グループ共同で独自の進路就職支援システム「Web Ash」を運用しています。学内の情報端末、パソコン教室のみならず、自宅や学外からも終日閲覧が可能です。求人票・説明会の案内を画像で閲覧できるだけでなく、業種や職種、県別に求人検索をすることができます。内定者の残した企業別の入社試験報告、公務員試験合格者報告も貴重な資料です。インターンシップ情報、行事欠席者のための動画の配信等、多くの機能を備えています。

4. 求人情報・卒業生情報提供

資料室では、求人票や企業からのパンフレット類をファイルでも提供しています。日経新聞・業界新聞や雑誌類、就職四季報や会社情報、公務員・教員希望者向け資料なども取り揃えています。求人票は対象別に、大学院、留学生、県別、既卒者向けにもファイルを設けています。パソコンを設置して、就職活動に利用することができるだけでなく、Web Ashで企業ごとの内定者アドバイザーリストを閲覧して、OB・OG訪問に役立てることができます。

掲示板や立て看板も、求人情報、行事の告知やお知らせの、重要な伝達手段となっています。

5. 進路状況・満足度調査、各行事アンケート

進路把握率は、数年来ほぼ100%を保ち、学部別の進路・就職状況、内定先一覧など詳細な統計資料を提供しています。学生の進路満足度、支援体制への満足度調査により、常に支援体制の改善・見直しを図っています。また、各行事開催ごとにアンケートを取り、日程、内容の検討を加えながら、次年度の開催の有無を決定しています。

6. 企業との情報交換

青山・相模原キャンパス合わせ、約1,500社の採用担当者に来訪いただいています。企業内容や採用実績、採用計画など情報収集に努めています。こうした関係づくりが、追加や臨時の求人情報を得る機会ともなっています。

企業との関係を強化するため、年2回、採用担当者を招いての情報交換会を実施しています。10月には学生の人気の高い企業に本学の紹介を含めて開催、12月は来訪企業を中心とした懇談会となっています。昨年より理事長にも参加いただき、本部・大学・短大執行部、就職部委員会メンバー、スタッフ全員で企業との名刺交換を行い、交流を深めました。

7. OB・OGからの協力

校友会、青山会ネットワークを中心に、模擬面接会、マスコミQ&A、業界説明会など、毎年行事の協力をいただいています。卒業生による講演としては、2009年度は就職ガイダンス時に松澤理事長より企業トップとしての経験を2回にわたりお話しいただきました。前期には、就職ガイドブックに掲載された卒業生によるパネルトークを実施、社労士会ご協力による労働法セミナーも毎年行っています。

8. 2009年度の新たな取り組み

文部科学省の補助事業である「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(平成21年度)に応募、取組名称「人材ニーズと学生意識との格差解消による適職発見」が採択されました。従来行っていた業務に加え、新たにWeb上でのエントリーシート添削機能を追加し、学生に提供する内容です。

Web Ash新機能「My カルテ」

2009年9月30日実施の3年生向け第1回就職ガイダンスで告知を行い、当日からWeb Ash上で無料でエントリーシート添削とWebによる模擬テストが受けられる新システムを導入しました。

2010年2月からはさらに機能を高め、学生からニーズの高い、個別企業のエントリーシートに向けた課題に対応できるようになりました。

2009年度の企画・開発・利用件数分の支払い費用はすべて、文部科学省の補助金により賄われます。

このように進路・就職センターは、相模原進路グループとの連携のもと、常に学生に有益なさまざまな挑戦を試み、社会に役立つ人材を送り出すための支援を続けております。

企業・団体、他大学、各情報会社、卒業生などとの交流により、社会における本学の位置を確認し、さらなる質の向上を目指してまいります。

(進路・就職センター)

キャリア形成支援課外講座

〔キャリアデザインセミナー 1・2年生対象〕

1年生は「大学での過ごし方」、2年生は「社会で働く」をテーマとして実施し、それぞれビジネスゲームを通して、1年生は「コミュニケーションの必要性」、2年生は「企業の特徴の調べ方」を体感しました。また、「社会人基礎力診断テスト」を実施することで、社会で求められる基礎的能力や自己の強みを把握し、さらなる自己成長を促しました。

2009年5月8日(金)～2009年5月22日(金)実施

※毎週金曜日開講。全3コマ。



〔1・2年生対象キャリアデザインセミナー〕
相模原キャンパス開催

〔プレ就職講座 1・2年生対象〕

低学年から就職活動の概要を把握することで、就職や将来について考えるきっかけを作り、自分の夢や目標に向けて、より充実した学生生活を過ごすことを目的として実施しました。社会で求められる力を知り、業界・職種に触れることで、視野が広がり、キャリアプランの創造につながりました。

2009年10月22日(木)～2009年11月5日(木)実施

※毎週木曜日開講。全3コマ。

〔ビジネススキル養成講座 1・2年生を中心とした全学年対象〕

今回は「就職活動を暗く覆う日本経済一不況と雇用不安の現状を知る」をテーマに、新聞の読み方のポイントをおさえ、現代経済の現状と背景を理解するとともに、自ら問題意識を持ち、ビジネスを創造する力を養成することを目的として行いました。講座の一貫として「日経TEST」を行い、論点解説を行うことで、知識を試し、さらなる理解を深めました。

2009年11月20日(金)～2009年12月11日(金)実施

※毎週金曜日開講。全4コマ。

〔就活体験講座 1・2年生対象〕

春期・夏期休暇に行われるインターンシップへの参加を目標とし、業界・職種研究を行い、エントリーシートの作成を体験することで、「情報収集力」および「文章力」を習得しました。また、実際にエントリーシートを作成するために、学生生活の振り返りを行い、今後の新たな目標設定の参考としました。

2009年12月15日(火)・12月18日(金)実施(全2コマ)

大学職業指導研究会の会長校として貢献

昨年度に引き続き、首都圏約120校の私立大学就職関係部署で構成される、大学職業指導研究会の2009年度会長を、進路・就職センター上倉事務長が務め、今年度は桶本係長が事務局長として事務局を運営しています。

大職研の会長として、学生の不利益を防ぐよう社会に働きかけるとともに、第1から第4までの分科会活動の調

整役を務めています。また新任者研修会、企業と大学との賀詞交歓会、管理職相当者研修会等を主催し、大職研ニュース発行など会員校への情報提供を行っています。

2009年度は大職研の40周年にあたり、1月14日には、企業223社(331名)、会員大学91大学(193名)にご参加いただき、盛大に40周年記念の賀詞交歓会が行われました。



40周年記念賀詞交歓会
於：グランドプリンスホテル赤坂

平成19年度文部科学省「現代GP」採択事業 「ICT活用教育のFD／SDプログラム」最終成果報告

青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター（HiRC）では、平成19年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（テーマ：教育効果向上のためのICT活用教育の推進）」に採択された「ICT活用教育のFD／SDプログラム～人材育成の一翼を担うICT活用教育の質向上を実現する研修プログラムの開発と普及～」に関して、取り組み実施期間終了の2019年3月まで、3年間積極的な取り組みを展開してきました。

ICT（注1）を活用した、これまでにない新しいFD（注2）／SD（注3）へのアプローチとして注目された同プログラムの成果について、HiRC副所長の玉木欽也教授（経営学部）と同センターの齋藤裕助教に3年間の取り組みの成果を聞きました。

今回の取り組みを振り返っていかがですか？



ヒューマンイノベーション
研究センター 副所長
経営学部 教授
玉木 欽也

玉木 今回のプロジェクトは、ICTをFDに活用することで、大学の授業における教員の教授活動の支援、使用するコンテンツ自体の魅力向上、および学生の授業に対するモチベーション促進などを通じ、授業全体の改善を行うことが大きな目的でした。また同時に、教員だけでなく職員に対するSD活動にもICTを反映させることが、当時は日本になかった取り組みとして注目を集めた点です。ICTに関しては、教職員個々で知識や技能に差があるため、「共通」「専門」「実践」という3つのプログラムを用意し、それぞれのニーズに応じて選択したり、あるいはステップアップできたりする研修体制を整えました。3年間を通して最終段階の「実践プログラム」まで展開でき、また3つの各プログラムに対応した各種コンテンツも当初の目標である100余りのコンテンツを用意できたので、想定していた成果を上げられたと考えています。

齋藤 3つのプログラムに関してですが、共通プログラムでは、誰もがすぐにでも活用できる、また活用していただきたいコンテンツを用意しました。例えばPowerPointの有効な使い方であったり、教材を作る際の著作権の問題についてなど、ICTに関わる導入的な面を取り入れています。一方、専門プログラムは、「授業の設計・評価・改善」「学習支援方法」「教材コンテンツの制作」の3方向から選べる形を構築。教員個々の興味で、より実用的に活用いただけるコンテンツをラインアップしました。そして実践プログラムでは、参加者同士の研修や意見交換の場となるフォーラムおよびワークショップなどを開催。かなりの駆け足でしたが、3年間という限られた時間のなかにおいては、プロジェクトの目的を達成できたと思います。

齋藤 3つのプログラムに関してですが、共通プログラムでは、誰もがすぐにでも活用できる、また活用していただきたいコンテンツを用意しました。例えばPowerPointの有効な使い方であったり、教材を作る際の著作権の問題についてなど、ICTに関わる導入的な面を取り入れています。一方、専門プログラムは、「授業の設計・評価・改善」「学習支援方法」「教材コンテンツの制作」の3方向から選べる形を構築。教員個々の興味で、より実用的に活用いただけるコンテンツをラインアップしました。そして実践プログラムでは、参加者同士の研修や意見交換の場となるフォーラムおよびワークショップなどを開催。かなりの駆け足でしたが、3年間という限られた時間のなかにおいては、プロジェクトの目的を達成できたと思います。

プログラムを推進するなかで見えてきたICTの課題点は？

玉木 一定の成果を残せたと考えてはいますが、あくまでも3年前に計画した申請事業内容に対応したコンテンツとシステムを構築できたに過ぎません。せっかくのプログラムですから、やはり活用してこそ価値が生まれます。そういう意味では「現代GP」としての取り組み

は終了しますが、このあとも教職員のみなさんとも連携しながら、今回の成果を有効活用していく体制づくりを引き続き行っていきたいと思います。



ヒューマンイノベーション
研究センター 助教
齋藤 裕

齋藤 とくにこの3年間は、ICT分野にとって激動の時期でした。例えば、社会情報学部で学生全員に配布された“iPhone”の普及。3年前の計画段階では、モバイルツールはプロジェクトの想定外でした。もし今から取り組みがスタートするのであれば、当然モバイルツールも含めたコンテンツ制作などが考えられたはずですが、ICTは日進月歩。もしかすると我々が完成させた100件のコンテンツのうち、いくつかは既に「賞味期限切れ」になっているものもあるかもしれません。3年間やり遂げて「これで終わり」ではなく、玉木教授も話された通り、引き続きどれだけフォローしていけるのかが大切だと感じています。

いくつかは既に「賞味期限切れ」になっているものもあるかもしれません。3年間やり遂げて「これで終わり」ではなく、玉木教授も話された通り、引き続きどれだけフォローしていけるのかが大切だと感じています。

教育分野におけるICTの可能性について聞かせてください。

玉木 高校までの教員は、教育活動をするための資格を受けていますが、大学の教員は研究活動が中心であり、“学生に教えること”は習ったことがありません。近年、大学における「教育の質保証」が問われていますが、そのための基本知識と術を身につけていない教員も実は多いのではないのでしょうか。もし、そういった悩みを抱いたときに、今回のICTを活用した教育コンテンツを思い出してもらえれば、何かしらのヒントが得られると思います。ICTを活用した授業の改善は、いわば教員にとって授業の進め方の大きな“改革”です。実際に活用していただくことはもちろんですが、教育にICTを使えるという新しい可能性や方向性に気付いてもらえるだけでも、プログラムを構築した価値があります。

齋藤 我々はICTの専門家ですが、残念ながらFDやSDを推進する専門家ではありません。そのためFDとSDについて、さらに深い知識を持った方々と連携できれば、もっと有効なシステムの構築が可能だと感じました。学内の協力体制は当然のことながら、例えば他の大学との連携によって、お互いの利点を生かすとともに弱点を補うことで、より実践的なFD／SD活動につながるのではないのでしょうか。また、そこには大いに我々のICTの知識と技術が生かせるはずです。こうして視野を広げること気付けたのも、今回のプログラムの大きな成果です。

玉木 本プログラムの推進に関しては、学内外を問わず、本当に多くの方々にご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。また、先程も申しました通り、プログラムの実施期間は終わりますが、今回の成果をさらに生かすべく、さらに活動を展開していくつもりです。引き続き多大なるご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（注1）ICT（Information and Communications Technology）情報通信技術

（注2）FD（Faculty Development）

教員が授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取り組み

（注3）SD（Staff Development）職員などスタッフの能力開発

技術士第一次試験・機械部門に 理工学部機械創造工学科の3年生32名が合格

2009年度の技術士第一次試験・機械部門において、理工学部機械創造工学科の3年生32名が見事に合格を果たしました。昨年22名だった3年生の合格者数が一気に10名も増えた計算です。

「技術士」とは、科学技術に関する高度な専門知識と豊富な実務経験、および倫理観を備えた技術者として認定される最も権威のある国家資格です。今回受験した「機械」をはじめ、「電気電子」「経営工学」など、全部で21の技術部門から構成されています。第一次試験の合格者は「修習技術者」と呼ばれ、(社)日本技術士会に登録手続きを行うことで「技術士補」となり、4年間の実務経験を経て第二次試験に合格し、登録すると「技術士」を名乗ることができるシステムです。

なお「技術士」は、世界各国の技術者資格の相互承認を推進するAPEC (Asia Pacific Economic Cooperation) エンジニア制度の登録対象となっており、登録することで活躍の場を海外に広げることが可能です。なかでも、米国内で多くの独占業務を担うPE (Professional Engineer) と同等とみなされることには、技術者としての可能性を広げるうえで多大なメリットがあります。また、日本国内でもPEと同じように、いくつかの専門的な業務を技術士取得者の独占業務とする動きがあり、将来性においても多方面から注目されているのです。

今回の多数の合格者輩出について、機械創造工学科の渡邊昌宏准教授、および合格者を代表して機械創造工学科3年の佐藤忠昭君に話を聞きました。



写真左から
佐藤君
渡邊准教授

理工学部機械創造工学科 渡邊 昌宏 准教授

本学科では、1年次から「工業力学」と「工業動力学」という力学の基礎となる科目を必修に置くとともに、機械工学の中心となる「材料力学」「流体力学」「熱力学」「機械力学」の4力学について2年次で徹底して学べるカリキュラムを構築しています。このように2年間で基礎をしっかり固めたうえに、3年次以降の専門知識を積み上げていくので、学生たちの理解度も高く、また技術士の第一次試験では、力学の基礎的部分の把握が重要なこともあり、今回の合格者増につながったのではないのでしょうか。学生たちが普段から集中し、学習・研究に取り組んでいる結果だと思います。また、本学科卒業の技術士の方やOB会 (AGME) の協力支援を受けて、毎年セミナーを開催していることも、今回の結果につながったと思います。

幅広い教養と専門知識の修得を目的とする大学においては、資格取得は最大の目的ではありません。それでも学生が大学でどう学び、どれほどの知識を身につけたかを表す「ものさし」となり、また同時に学部・学科の教育の「質の保証」にもなると考えています。とくに「技術士」の資格は、そのまま将来の仕事にも直結するパスポートとも呼べるもの。3年次で取得すれば、その後の就職活動でも大きなアピールポイントになるはず。今回の第一次試験は、まだまだ入門的な資格ですが、これをきっかけとし、学生たちには、将来の自分自身の力となる他の資格にも、積極的にチャレンジしてもらいたいですね。

理工学部機械創造工学科3年 佐藤 忠昭 君

2年次に4力学について学んだ“基礎”があったので、復習を中心に勉強することで試験に対応できました。また、2年次から研究室で学べる「ラボワーク」のおかげで、昨年受験された渡邊研究室の先輩方から試験の傾向や過去問など、貴重な情報をお聞きできたことも心強かったです。技術士の試験は、第一次試験に合格した後、4年間の実務経験を経て第二次試験があります。大学入学時から将来は海外に出てモノづくりに関わりたいとの夢があるので、「技術士」の資格取得を視野に入れつつも、FE (Fundamentals of Engineering) やPEなど、海外の技術系の資格にも今後は挑戦するつもりです。

FE：PE取得のための第一次試験に相当。FE合格後に4年以上の実務経験を積むことでPEの受験資格を取得できる。

理工学研究科が他大学との単位互換制度を導入 「神奈川県内の大学間における学術交流協定」

理工学研究科では、2010年4月より「神奈川県内の大学間における学術交流協定」に参加し、協定校間の単位互換をスタートさせます。この取り組みは、神奈川県内に位置する大学間の学術交流を通じ、各大学院における教育研究活動の一層の充実を図ることを目的とするものです。大学院生は、新たに授業料を徴収されることなく、協定校間での授業科目の履修等が可能となります。

2010年4月の段階で、趣旨に賛同した25大学によって活動いたします。本学理工学研究科でも、専攻共通科目4科目、専攻専門科目81科目を開講予定です。積極的な学術交流が生まれ、神奈川県内の教育の質向上につながっていくことが、期待されています。

■参加大学一覧

麻布大学／神奈川大学／神奈川工科大学／関東学院大学／北里大学／湘南工科大学／専修大学／鶴見大学／帝京大学／桐蔭横浜大学／東海大学／東京工芸大学／日本大学／日本女子大学／横浜市立大学／横浜国立大学／東京工業大学／明治大学／フェリス学院大学／情報セキュリティ大学院大学／東京都市大学／総合研究大学院大学／相模女子大学／松蔭大学／青山学院大学

本学の開講科目、および参加大学が開講する研究科・学府などの詳細は、本学理工学研究科のホームページにてご確認ください。
<http://www.aoyama.ac.jp/graduate/science/index.html>

北里大学・青山学院大学戦略的大学連携支援事業 『病院の言葉をわかりやすく』連続講演会を開催



社会情報学部 教授 稲積宏誠

青山学院大学では2008年度より、北里大学と共同で「ヘルスケア・ソリューション研究」に取り組んでいます。その一環として、本学青山キャンパスおよび相模原南メディカルセンターにおいて、医療従事者と患者のコミュニケーションを「言葉」の側面から研究されている各分野の専門家を迎えて、全3回にわたり『病院の言葉をわかりやすく』連続講演会を開催しました。本講演会の概要と意義について、本事業の担当者である社会情報学部の稲積宏誠教授に聞きました。

今回の連続講演会は、国立国語研究所が行った精力的な取り組みの成果を取り上げ、ヘルスケア・ソリューション研究への展開を図るためのものです。医療の分野では、患者中心の医療の考え方の広まりから、医療者の十分な説明、患者の十分な理解と納得を前提として、自らの医療を選ぶことが求められています。ところが医療者の説明に出てくる言葉のわかりにくさが、患者の理解と判断の障害になっています。『病院の言葉をわかりやすく』としてまとめられた取組は、「病院の言葉」のわかりにくさの原因を探り、わかりやすく伝えるための工夫を医療者に対して提案しました。

第1回(1月22日(金) 本学青山キャンパスにて開催)の「コミュニケーション学と医療」では、患者と医療者の信頼関係や協力関係を築くためのポライトネス戦略が取り上げられました。人のもつポジティブフェイス(親近欲求)とネガティブフェイス(不可侵欲求)を見極めたコミュニケーションの大切さを説いています。

馴れ馴れしい態度や冗談によって相手との距離感を狭めることが効

果的な場面と、敬語や控え目な表現で相手との距離感を保つことが効果的な場面、これらを患者の言葉や表情から推測して対応することの重要性を指摘したものです。これについては、第3回(1月30日(土) 相模原南メディカルセンターにて開催)の「医療現場のコミュニケーション問題」で医療機関における実践例が紹介され、その有効性が示されました。

第2回(1月29日(金) 本学青山キャンパスにて開催)の「医療現場の紛争とコミュニケーション」では、あらためて『病院の言葉をわかりやすく』の取組全般の意義が取り上げられました。〈日常語で言いかえるべき言葉〉「予後」と言われると重々しいですが、「今後の病状の見通しですよ」と言われればさほど気にしません。〈明確に説明する必要がある言葉〉「潰瘍」と言われるとドキッとしますが、「病気のためにからだの一部が深いところまで傷ついています」だと全く違った印象です。〈混同を避ける言葉〉「合併症」には、ある病気が原因となって起こる別の病気のことなのか、手術や検査によって引き起こされる可能性のある病気のことなのか、どちらの意味で使うかによって印象は大きく異なります。このようにきめ細かく現場での問題点を分析・検討し、提案にまとめています。

今回の3回にわたる講演によって、現在進められている北里大学と青山学院大学の大学間連携の取組:ヘルスケア・ソリューション研究の目指す「異分野間のコラボレーションによる医療現場への貢献」の一つの方向性が示されたといえます。今後は、取組独自の成果を示していくことになりま



「ヘルスケア・ソリューション研究」パンフレット

レスリング部の尾曲 伸乃祐君が天皇杯全日本選手権で3位入賞。 まだまだ大きな夢を目指します!

2009年12月21日(月)~23日(水・祝)に代々木競技場第2体育館で開催された「2009年天皇杯全日本選手権」において、男子グレコローマン84kg級に出場した本学レスリング部の尾曲伸乃祐君(経済学部4年)が、堂々の3位に入賞しました。2008年の学生2冠に続く快挙について、またさらにその先にある大きな夢について尾曲君に聞きました。

「天皇杯全日本選手権」の優勝者と、5月に開催される「明治乳業杯全日本選抜選手権」の優勝者としてプレーオフを行い、その勝者が9月の「世界選手権(モスクワ)」に出場できます。今年の世界選手権出場を目指して猛特訓に励んできたので、天皇杯では優勝しか頭になく、3位の結果には満足していません。しかし、実は大会2週間前、遠征先の韓国で右腕に全治2ヶ月の怪我を負ってしまい、必死で毎日8時間のリハビリを続けて何とか本番に間に合わせた経緯があったので、そんな状態での3位に「納得」はしています。しかも天皇杯ベスト8が明治乳業杯に参加できる条件だったので、世界選手権の最終切符への挑戦権は、何とか手に入れることができました。

2008年に学生2冠を達成してからは、さらに上を意識するようになり、いまは「世界チャンピオンになりたい!」という思いでいっぱいです。最近とはくに、各国の精鋭たちが集まる世界選手権の方が五輪よりレベルが高

い印象があり、ここで勝ち抜くことが世界チャンピオンにふさわしいと考えています。まずは5月1日(土)~3日(月・祝)に代々木競技場第2体育館で開催される明治乳業杯に全力投球。悔しい思いをした天皇杯の分まで万全の状態です。戦うつもりですので、ぜひ、応援に来てください。



経済学部4年 尾曲伸乃祐君

青山学院大学での4年間を振り返ると、レスリング部については、選手を大人として扱ってくれた印象です。レスリングに集中できる環境があり、太田浩史監督や仲間たちがいたからこそ、学生2冠も達成できたと思います。また、青学への入学を機に神戸から上京してきましたが、充実した学生生活のためには、レスリングだけではなく、勉強もしっかりすることを決意しました。もともと中途半端は嫌いなので、授業も絶対に休まず、常に教室の一番前の席を確保することを「自分自身と約束」。そして4年間、その約束を守り通したことは大きな自慢です。卒業した後も、この4年間の経験を忘れることなく、世界チャンピオンの夢に向かって突っ走ります。

副学長再任のお知らせ

副学長（学務及び学生担当、相模原キャンパス担当）

長谷川 信（再任）

経営学部経営学科 長谷川 信教授は2009年12月15日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年12月16日より2年間。

■学歴 東京大学経済学部経済学科卒業／東京大学大学院経済学研究科修士課程修了／東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学／最終学位[経済学修士]

■職歴 静岡大学教育学部助教授

■所属学会 社会経済史学会／土地制度史学会／経営史学会／企業家研究フォーラム

副学長（総務担当）

岡田 昌志（再任）

理工学部機械創造工学科 岡田 昌志教授は2009年12月15日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年12月16日より2年間。

■学歴 東京工業大学工学部機械工学科卒業／東京工業大学大学院修士課程機械工学専攻修了／東京工業大学大学院博士課程機械工学専攻修了／最終学位[工学博士]

■所属学会 日本機械学会／日本冷凍空調学会／日本伝熱学会／日本熱物性学会

副学長（広報及び将来構想・第二部担当）

土山 実男（再任）

国際政治経済学部国際政治学科 土山 実男教授は2009年12月15日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年12月16日より2年間。

■学歴 青山学院大学法学部公法学科卒業／ジョージ・ワシントン大学大学院修士課程国際政治学専攻修了／メリランド州立大学大学院博士課程国際政治学専攻修了／最終学位[Ph.D.]

■職歴 ハーバード大学ジョンM.オーリン戦略研究所客員研究員などを務めた

■所属学会 International Studies Association／日本国際政治学会／国際安全保障学会／国際法学会

2009年度退職専任教員

2010年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。（○印は定年退職される教員）

○秋元 実治 文学部英米文学科 教授

○相田 洋 文学部史学科 教授

和田 伸哉 文学部史学科 助手

○仁科 貞文 教育人間科学部心理学科 教授

副島 秀治 教育人間科学部 助教

有川 雅裕 教育人間科学部教育学科 助手

後藤 智弘 経済学部 助手

大石 純一郎 法学部法学科 教授

○重田 晴生 法学部法学科 教授

○谷原 修身 法学部法学科 教授

○秋山 武清 経営学部マーケティング学科 教授

○柘山 堯司 国際政治経済学部国際政治学科 教授

○中兼和津次 国際政治経済学部国際経済学科 教授

山口 昌英 理工学部物理・数理学科 准教授

糸井 充穂 理工学部物理・数理学科 助教

川口 俊宏 理工学部物理・数理学科 助教

○遠藤 忠 理工学部化学・生命科学科 教授

○降旗 千恵 理工学部化学・生命科学科 教授

佐藤 泰史 理工学部化学・生命科学科 助教

渡辺 貴志 理工学部化学・生命科学科 助教

○小林 俊雄 理工学部電気電子工学科 理工学部講師

○三柄 功 理工学部機械創造工学科 教授

坂上 賢一 理工学部機械創造工学科 助教

○田中 秀明 理工学部機械創造工学科 理工学部講師

○辻 正重 理工学部経営システム工学科 教授

道用 大介 理工学部経営システム工学科 助教

○高梨 公孝 理工学部経営システム工学科 理工学部講師

山路 学 理工学部経営システム工学科 助手

野村 亮 理工学部情報テクノロジー学科 助教

松本 章代 理工学部情報テクノロジー学科 助教

GILLESPIE, S. 社会情報学部社会情報学科 准教授（専任待遇）

藤原 洋 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻 特任教授

○神長 勲 法務研究科法務専攻 教授

和田 吉弘 法務研究科法務専攻 教授

○青木 茂男 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 教授

○小林 秀行 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 教授

梶川 融 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 特任教授

金田 勇 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 特任教授

松尾 明 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 特任教授

その他の月日をもって退職された教員

田野 慶子 経済学部経済学科 教授

安延 悠子 経営学部経営学科 助手

伊藤 雅彦 社会情報学部社会情報学科 准教授

大湾 秀雄 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻 教授

保護者の皆さまへ お知らせ 新しい募金の受付が開始されました。

青山学院維持協力会募金

※この募金は青山学院の充実発展を側面から支援していただく会員組織です。

募集事業内容……………「財政基盤の確立」

寄付金額……………普通会员 1口(年額1万円)以上

終身会員 1口(25万円以上)

特別会員 1口(1万円)以上

青山学院奨学金募金

※この募金は「青山学院スカラーシップ」制度に基づく、青山学院在学生を支援する、寄付による給付奨学金です。

募集事業内容……………「スカラーシップ(給付奨学金)充実」

寄付金額……………冠奨学金 15万円以上

エバーグリーン奨学金 原則として1口1万円以上

本院の大学～幼稚園の各学校を指定することも出来ます。

ご協力をお考えの方は、こちらまでご一報ください。資料をお送りいたします。

学校法人 青山学院 募金事務局 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL 03-3409-6208 <http://www.aoyamagakuin.jp/>

2010年度 学年初頭行事について(抜粋)

「学生ポータル」で、より詳細な情報を掲載していますので、必ず、確認してください。

※大学院生(青山キャンパス)は、大学院事務室または専門職大学院各研究科掲示板を参照してください。

青山キャンパス

履修ガイダンスの所要時間は30分~60分程度です。

●書類配布・履修ガイダンスについては各学年とも留年者を含みます。

●2010年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「2010年度学年初頭行事案内(編入学・転部・転学部・転学科生用)」を参照してください。

【昼間部】

学部	学科	学年	日程	書類配布		履修ガイダンス			学生証更新			健康診断		
				時間	場所	時間	場所	備考	日程	時間	場所	日程	時間	場所
文学部	教育学科	新4年生	4月1日(木)	12:30	ガウチャー 記念礼拝堂 1階ロビー	13:00	1123教室		4月1日(木) 9:30~ 4月2日(金) 11:30 4月5日(月) 13:00~ 15:30	2号館2階	4月2日(金) 9:00~ 4月5日(月) 13:00~ 4月6日(火) 15:00~ 4月7日(水) 17:00~ 19:00			
		新3年生	4月2日(金)											
	英米文学科	新4年生	4月1日(木)	10:30		11:00	930教室							
		新3年生	4月2日(金)											
	フランス文学科	新4年生	4月1日(木)	12:30		13:00	922教室							
		新3年生	4月2日(金)											
	日本文学科	新4年生	4月1日(木)	10:30		11:00	1173教室							
新3年生		4月2日(金)												
史学科	新4年生	4月1日(木)	12:30	13:00	920教室									
	新3年生	4月2日(金)												
心理学科	新4年生	4月1日(木)	12:30	13:00	1173教室 921教室	新4年生は13:30より「卒業研究」説明会 新3年生は13:30より「卒業研究」説明会								
	新3年生	4月2日(金)												
経済学部	経済学科	新4年生	4月1日(木)	9:30	910教室 1階入口	10:00	910教室		所要時間:約30分(混雑時) ※4月3日(土)は入学式当日の為、 更新はできません。					
	現代経済デザイン学科	新3年生	4月2日(金)	14:00~	931教室	14:30	931教室							
法学部		新4年生	4月1日(木)	9:30	4号館 1階廊下	10:00	420教室	始業伝達式含む						
経営学部		新4年生	4月2日(金)	12:45	910教室 1階入口	13:15	910教室							
		新3年生	4月1日(木)											
国際政治経済学部		新4年生	4月1日(木)	12:45	6号館 1階廊下	13:15	621教室							
		新3年生	4月2日(金)											
総合文化政策学部		新3年生	4月1日(木)	12:45	4号館 1階廊下	13:15	420教室							
		新2年生	4月2日(金)											
文学部	心理学科(夜間主)	新4年生	4月1日(木)	18:00	1172教室	18:30	1172教室	新4年生は19:00より「卒業研究」説明会						

【第二部(夜間部)】

学部	学科	学年	日程	書類配布		履修ガイダンス			学生証更新			健康診断		
				時間	場所	時間	場所	備考	日程	時間	場所	日程	時間	場所
文学部 第二部	教育学科	新4年生	4月2日(金)	18:00	7号館1階 学生コピー	18:30	920教室		4月1日(木) 4月2日(金) 4月5日(月)	17:00~ 19:30	2号館2階	4月2日(金) 9:00~ 4月5日(月) 13:00~ 4月6日(火) 15:00~ 4月7日(水) 17:00~ 19:00		
		新3年生												
	英米文学科	新4年生	4月2日(金)			18:30	921教室							
		新3年生												
経済学部第二部		新4年生	4月2日(金)	18:30	621教室	18:30	621教室							
		新3年生												18:00
経営学部第二部		新4年生	4月2日(金)	18:00		18:30	930教室							
		新3年生												18:00
		新2年生												

学生証更新について

学生証更新の所要時間は混雑時で30分程度です。

学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、大学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生部厚生課にて再交付の手続きを済ませてください。

健康診断について(受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条)

- 健康診断の詳細は、学生ポータルの『2010年度初頭行事日程』または掲示板を参照してください。
- 健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等が保健管理センター窓口にありますので、取りに来てください。
健康診断未受診の場合、健康診断証明書の発行はできません。(就職用・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等で必要となります。)
- 健康診断について何か質問のある場合は、直接保健管理センター窓口、もしくはTEL.03-3409-7896(直通)にて確認してください。

授業開始前の行事についてお知らせします。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に必ず、登校してください。
ここに掲載する行事以外にも重要な行事がありますので、下表の「書類配布」において配布する資料を必ず確認し、行事に出席してください。

相模原キャンパス

履修ガイダンスの所要時間は、60分程度です。各自あらかじめ計画して指定の日時に出席してください。
その他の行事については、学生ポータル『2010年度初頭行事日程』を参照してください。

●2010年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「2010年度学年初頭行事案内(編入学・転部・転学部・転学科生用)」を参照してください。

学部	学科	学年	日程	書類配布		履修ガイダンス		学生証更新		健康診断			奨学金募集説明会(新規希望者) 日程・時間・場所
				時間	場所	時間	場所	時間	場所	日程	時間	場所	
文学部	英米文学科	新2年生	4月1日(木)	13:30	E105教室	14:00	E101教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。
	フランス文学科	新2年生	3月31日(水)	9:30		10:00	E104教室						
	日本文学科	新2年生	3月31日(水)	9:30		10:00	E102教室						
	史学科	新2年生	4月1日(木)	13:30		14:00	E104教室						
教育人間科学部	教育学科	新2年生	3月31日(水)	9:30	10:00	E101教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。	
	心理学科	新2年生	4月1日(木)	13:30	14:00	E102教室							
経済学部	経済学科	新2年生	4月2日(金)	12:30	E106教室	13:00	E101教室 E102教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。
	現代経済デザイン学科	新2年生	4月2日(金)	9:30		10:00	E104教室						
経営学部		新2年生	4月1日(木)	13:30	E106教室	14:00	E301教室 E302教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。
法学部		新2年生	4月2日(金)	12:00		12:30	E301教室 E302教室						
国際政治経済学部		新2年生	4月2日(金)	9:30		10:00	E201教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。
理工学部	物理・数学科	新4年生	4月1日(木)	14:00	E105教室	14:30	E201教室						
		新3年生	4月1日(木)	10:00		10:30							
	化学・生命科学科	新2年生	3月31日(水)	10:00		10:30	E202教室						
		新4年生	4月1日(木)	14:00		14:30							
	電気電子工学科	新4年生	4月1日(木)	14:00		14:30	E201教室						
		新3年生	4月1日(木)	10:00		10:30							
	機械創造工学科	新2年生	3月31日(水)	10:00		10:30	E202教室						
		新4年生	4月1日(木)	14:00		14:30							
		新3年生	4月1日(木)	10:00		10:30							
		新2年生	3月31日(水)	10:00		10:30							
経営システム工学科	新4年生	4月1日(木)	14:00	14:30	E202教室								
	新3年生	4月1日(木)	10:00	10:30									
情報テクノロジー学科	新2年生	3月31日(水)	10:00	10:30	E202教室								
	新4年生	4月1日(木)	14:00	14:30									
社会情報学部	新3年生	4月1日(木)	9:00	9:30	E106教室	E101教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。	
	新2年生	4月2日(金)	12:30	13:00		E201教室							
理工学研究科		3月31日(水)	13:30	E301教室前	14:00	E301教室	13:30~ 16:30	F307教室 F308教室	4月1日(木) 4月2日(金)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:30	D棟	4月1日(木) 16:00~ E101教室 E102教室 4月2日(金) 10:00~ E101教室 E102教室 希望者は どちらかの説明会に 出席してください。	
社会情報学研究科(社会情報学コース)		4月2日(金)	13:30	B611教室	13:30	B611教室							

文学部1年次留年生 注)履修ガイダンス開始前と同じ教室で「履修登録資料」の配布があります。

学部	学科	日程	書類配布		履修ガイダンス		学生証更新		健康診断			
			時間	場所	時間	場所	日程	時間	場所	日程	時間	場所
文学部	英米文学科	4月6日(火)	14:00	E105教室	14:30	E101教室	3月31日(水) 4月1日(木) 4月2日(金)	13:00~ 16:30	F307教室 F308教室	4月6日(火) 4月7日(水)	9:00~ 10:30 13:30~ 16:00	D棟
	フランス文学科		10:30		E303教室							
	日本文学科		10:30		E307教室							
	史学科		14:00		E104教室							

学生証更新について

学生証更新の所要時間は混雑時で30分程度です。

学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、大学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。

なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生支援ユニット学生生活グループにて再交付の手続きを済ませてください。

健康診断について(受診の義務: 青山学院大学学生共通細則第9条)

健康診断の詳細は、学生ポータル『2010年度初頭行事日程』または共通掲示板を参照してください。

健康診断を未受診の場合は外部(自費で約4000円)で受診することになり、証明書などの発行はできません。

奨学金募集説明会について

新規希望者のみの募集になります。

卒業生へのメッセージ



卒業生の皆さんへ
校友会会長 原進

今春、本学を卒業される学部生、研究生の皆さんに心からお祝い申し上げます。青山学院の卒業生は学んだ教育、理念のもと、国内のみならず、世界各地であらゆる分野において活躍されており、青山学院が高く評価されていることに貢献しております。これから卒業される皆さんにも大いに期待するところです。

さて、皆さんは卒業と同時に「青山学院校友会」の正会員として迎えられることになっており、心より歓迎申し上げます。百有余年の歴史を持つ校友会は、校友相互の親睦と母校との絆をつなぐため、また母校の発展に寄与するため組織されております。建学の精神を正しく継承している校友会活動を通じての諸先輩との交流は、皆さんの人生をきっと豊かで有意義なものにしてくれることと思います。そして毎年9月に青山キャンパスで開催されます同窓祭に参加いただけますと何年、何十年経ってもきっと青春の思い出が甦ってくることだろうと思います。

校友会組織は皆さんが在籍した各学部、学科ごとの同窓会、体育会系、文化会系、ゼミ等のOB、OG会、その他あらゆる団体の参加する登録諸団体、そして国内55カ所、海外18カ所に地域の支部があり、卒業後どこに行かれても校友会組織に加入することが可能です。複数加入も歓迎です。是非ご参加されることをお勧めいたします。最後になりましたが、皆さんのご活躍と幸多き人生でありますようお祈り申し上げます。

青山学院校友会センター 校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生の現住所等基本情報を管理し、また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。

校友向け情報紙「あなたと青山学院」の発行・発送など、さまざまな活動を通し卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。

これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理は適切かつ厳格に行っております。

*氏名、現住所、勤務先などに変更が生じた場合は、必ず青山学院校友会センターにお知らせください。

「あなたと青山学院」について

毎年1回発行していた「青学チャイムズ」は、今年の2月発行で終了し、新たな情報紙として年4回「あなたと青山学院」をお届けします。本紙は青山学院と青山学院校友会が共同制作し、全卒業生にお送りするもので青山学院、青山学院校友会からさまざまな情報を発信します。

青山学院校友会URL <http://www.alumni-aogaku.jp/>



卒業後の連絡先一覧

TEL.03-3409-8111 (代表・青山キャンパス) 大学ホームページ
TEL.042-759-6000 (代表・相模原キャンパス) <http://www.aoyama.ac.jp>

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
卒業・修了、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象 (第二部(夜間部)を含む)
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学部・社会情報学研究科対象
	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマン/バージョンコース)対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
学力に関する証明書の交付 (旧.基礎資格および単位修得証明書)	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	免許状授与証明書は、免許状の交付を受けた都道府県の教育委員会へお問い合わせください。
	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象 (第二部(夜間部)を含む)
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学研究科対象
科目等履修生制度の案内	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	教職課程対象
	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマン/バージョンコース)対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・会計プロフェッション研究科対象
図書館の利用	図書部運用課	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。 http://www.agulin.aoyama.ac.jp/
	教育・学習支援ユニット図書グループ(※)	042-759-6027	
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマン/バージョンコース)対象
	学生支援ユニット学務グループ(※)	①042-759-6033 ②042-759-6072	①理工学研究科対象 ②社会情報学研究科対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談(教会紹介など)	宗教センター(ウェスレー・ホール1F)	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 校友会支部等連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付	青山学院校友会センター	03-3409-6645	校友センター http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
	青山学院校友会本部 (アイビー・ホール青学会館2F)	03-3409-9773 FAX 03-5485-3616 校友会集会所専用 03-3409-8628	E-mail agkoyu@aoyamagakuin.jp 校友会 http://www.alumni-aogaku.jp/ E-mail alumni@aoyamagakuin.jp
学院の歴史資料、メソジスト教会関係資料閲覧	資料センター	03-3409-6742	資料閲覧希望の場合は、早めに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/
青学オープンカレッジの案内	青学オープンカレッジ事務局(間島記念館B1F)	03-3409-8501	青学オープンカレッジホームページ http://www.j-aoyama.jp/
「青山学院 エバークリーン募金」などの受付	募金事務局(間島記念館1F)	TEL 03-3409-6208 FAX 03-3409-3890	「青山学院 エバークリーン募金」(維持協力会募金・奨学金募金)へのご寄付、遺贈によるご寄付等の申込受付。
AOYAMA GREEN FESTIVAL (大学同窓祭)	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレー・ホール3F)	TEL 03-3409-8990 FAX 03-3409-8975 http://aogaku-doso.jp/	今年も9月23日(木・祝)に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。
婚礼・会合施設	ブライダルサロン (アイビー・ホール内)	03-3409-8181(代表)	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドグル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.ivyhall.jp/

(※)相模原キャンパス

●AGUニュースのバックナンバーは、大学ホームページでご覧になれます。

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、無担保・低金利・在学期間中の元金返済据置等、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です(学生本人が融資を受ける場合、年収により保証人が必要になります)。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

【必要書類】

1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

【提携銀行】

(代表問合せ支店)

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談課	TEL 03-3463-0101
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL 03-3409-3211

※2010年6月以降の取り扱いについては変更になることがあります。

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2010年4月～5月)

- 合気道部 第52回全国合気道演武大会(5月)
- アイススケート部ホッケー部門 秩父宮杯第59回関東大学アイスホッケー選手権(4月)
- アイススケート部フィギュア部門 春季関東学生フリースケーティング選手権大会(5月)
- 空手道部 第38回関東学生空手道選手権大会、
第46回東日本大学空手道選手権大会(5月)
- 弓道部 第48回百射会(5月)
- 硬式庭球部 関東学生テニストーナメント(4～5月)
- 硬式野球部 東都大学春季リーグ戦(4～5月)
- サッカー部 第84回関東大学サッカーリーグ戦(4～5月)
- 自動車部 全関東学生ジムカーナ選手権大会(5月)
- 柔道部 全国基督教関係大学柔道大会(5月)
- 準硬式野球部 第52回関東大学準硬式野球選手権大会(4月)
- 少林寺拳法部 第47回少林寺拳法関東学生大会(5月)
- 水泳部 第86回日本選手権水泳競技大会(4月)
- ソフトテニス部 平成22年度関東学生春季リーグ戦大会(5月)
- 卓球部 平成22年度春季関東学生卓球リーグ戦(5月)
- チアリーディング部 アジア・インターナショナルチャンピオンシップ(5月)
- 軟式野球部 東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦(4～5月)
- バスケットボール部男子 第59回関東大学バスケットボール選手権大会、
第26回京王電鉄杯10大学フェスティバル(5月)
- バスケットボール部女子 第44回関東大学女子バスケットボール選手権大会(5月)
- 馬術部 第21回JRA馬場馬術大会(4、5月)
- バドミントン部 関東学生バドミントン春季リーグ戦(4月)
- バレーボール部女子 春季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(4～5月)
- パワーリフティング部 第37回全日本学生パワーリフティング大会、
第88回関東学生パワーリフティング選手権大会(5月)
- ハンドボール部 2010年度関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦(4～5月)
- 洋弓部 関東学生アーチェリーリーグ戦(4～5月)
- ヨット部 2010年度関東学生ヨット選手権大会(5月)
- 陸上競技部 第89回関東学生陸上競技対抗選手権大会(5月)
- オーケストラ部 第96回定期演奏会(5月)
- グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟第52回定期演奏会(5月)

主要活動報告(2009年12月～2010年3月)

- バスケットボール部男子 第61回全日本学生バスケットボール選手権 3位
優秀選手賞 比江島 慎
- 馬術部 第45回全日本学生馬術女子選手権大会 森 香奈子 2位
- 陸上競技部(長距離ブロック) 第86回東京箱根間往復大学駅伝競走大会
総合8位(41年振りシード権獲得)
- レスリング部 天皇杯全日本選手権 尾曲 伸乃祐 (グレコローマン84kg) 3位

アドバイザー・グループに入ろう!

本学特有の課外活動で、アドバイザー・グループ(通称「アド・グル」と呼ばれています)の制度があります。このシステムは、教員がアドバイザーとして学生と人格的に交わることを中心に、教員と学生・学生相互が人生あるいは学問の先輩・後輩として、各種懇談会・読書会・見学旅行・ピクニック・ボランティア活動・各種スポーツ合宿などの諸活動を通して、物の見方・考え方、そして生き方を共に深く探求することを目的としています。

教室を離れ、アド・グルの教員を中心に集まった仲間と共に食べ、共に学び、人

生を語ることはとても有意義なことです。在学中ばかりでなく、きっと卒業後にも交わりが深まり、一生を通して心を高め合うことのできる価値ある出会いの場ともなります。

新入学生はもちろんのことが在学生も、有意義な「つながり」として、積極的に参加しましょう。アド・グルの参加は、1年毎の登録制度になっていますので、年度初頭に配布される「アドバイザー登録のしおり」を参照してください。

(学生部長 本郷 茂 記)

アドバイザー登録について

アドバイザーの登録

受付期間 2010年4月9日(金)～20日(火)
受付場所 相模原キャンパス 学生生活グループ(B棟1階スチューデントセンター)
青山キャンパス 学生部学生課(1号館1階)

その他

・アド・グルは、1年毎の登録制度になっています。
・アドバイザーによっては、若干の条件や制限を設けている場合があります。
・アドバイザーの選択は自由です。

青山スタンダード テーマ別科目
キリスト教理解関連科目

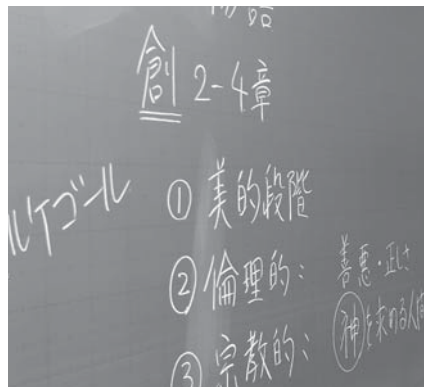
「聖書の中の女性たち (旧約)」



谷口 裕子
理工学部 准教授

私が日本で神学生だった頃、女性だけをテーマに聖書の授業が成立するなど考えることさえできませんでした。丁度、神学校を卒業する頃に、フェミニスト神学や聖書学の本を英語の原書で読み「これだ!」と思った私はボストンに留学しました。日本で読んでいた『In Memory of Her』の著者の下で偶然にも学ぶことができ、ほんとうに幸運でした。しかし、日本でフェミニスト聖書学がどのように受容されるかは、私にとっては暗中模索状態で、今もそうです。なぜなら、日本人はまず、聖書物語を下敷きにしたキリスト教文化になじみが薄いからです。その上で、旧約聖書だけでも、女性の登場人物は全体の10%にも満たないのです。名前付きで登場する女性、約135名も、ほとんど重要な役割をもちません。傍流でしかない女性の物語を探るためには、まず聖書の主流である男性の物語を知っていないと、ピンとこないのです。

1960年代より主にアメリカでフェミニスト聖書学者は、女性の姿を聖書のなかに積極的に探し始めました。そのために考古学・民族誌学・社会学・解釈学のさまざまな理論と方法を駆使し、聖書の中の女性の歴史を再構築しようと試



みてきました。男性優位の視点を維持する聖書箇所は、フェミニスト聖書学者によって厳しい批判に曝されもしました。しかし、現代のフェミニスト聖書学は、多様な視点から「女性」を読み解こうとします。単純に「正しい」視点などないのです。

この授業では初めて旧約聖書を読む学生が大半です。聖書の始めからできるだけ順を追って、代表的な女性たちの生き様を紹介していきます。学生たちは、あまりにも率直に描かれた女性の物語、家族の物語、愛憎の物語に驚き、納得しかねることもあります。信仰を養う書物とは思えないような、なまなましい物語が大

半を占めます。そのためもあり、文学としての聖書という入り口から女性の物語にアプローチすることになっています。

キルケゴールという神学者・哲学者は人間の成長段階に「美的」「倫理的」「宗教的」段階を考えました。このことは文学として聖書を読むときにも参考になります。人間のありのままの姿を描く文学は、美的・倫理的・宗教的要素を兼ね備えています。聖書はこの意味で文学なのです。フェミニスト神学は、これまで倫理的段階を得意としてきました。しかし、フェミニスト神学も宗教的段階に根ざしているのです。神は倫理的な判断を超越した仕方、信仰者と関わることがあります。そのとき信仰者は、神の答えが見つからなくても探し続けます。問いを発することが重要なのです。

前期に開講している相模原キャンパスでの「聖書の中の女性たち(新約)」は、新約聖書がメインであるためか、理解しやすいのですが、旧約聖書の物語はかなり複雑で深刻です。しかし、キリスト教文化の根底にある人間理解と神理解の深淵を感じ取るために旧約聖書の女性たちの物語は欠かせないと考えています。



2010年度 青学オープンカレッジについて

青山学院大学では、公開講座の一部(渋谷区教育委員会共催講座、相模原市・座間市共催市民大学)を残し、公開講座を発展させて「青学オープンカレッジ」として、約40の講座を夏期(2009年9月)・春期(2010年3月)に分け、開講しました。青学オープンカレッジの開講を記念して各界の著名な方々による月1回の連続講演会「青山リレートーク」も開催しました。青山・表参道の特色を活かして、美術・芸術・文化論をはじめ、国際政治論など、青山学院大学にふさわしいオープンカレッジが生まれました。そのうえ、近隣の美術館や歌舞伎座のご協力で、単に講座を受けるだけでなく、受講者が参加するかたちの本学だからできる講座ももうけられました。講師には、本学教員とわが国を代表するビジネス界や外交の現場からの第一線の専門家が講師をつとめます。

2010年度以降には、同講座のいっそうの充実をはかる意味から、近隣の美術館との連携をさらに強化することや、1講座3回だったもの

を4回・5回にすること、「英語の青山」にふさわしい英語学習講座を取り入れるなどプログラムが充実します。また、相模原キャンパスでもオープンカレッジを開講する予定にしており、同キャンパスに拠点をおく理工学部・社会情報学部の内容を伝える講座や同キャンパスの特性を活かして環境やスポーツに関連した講座も開かれる予定です。

みなさまのご参加を、心からお待ちしております。なお、詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

青学オープンカレッジ事務局(間島記念館B1F)
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8501 FAX.03-3409-9740 <http://www.j-aoyama.jp/>

各講座の一覧・申込方法などの詳細を掲載したパンフレットをご希望の方は上記までお問い合わせいただくか、上記ホームページよりお申し込みください。

2009年度 青学オープンカレッジ開催報告

伊藤定良学長は、大学を「創造の場」「学びの場」「出会いの場」として位置付けていますが、大学で学んだり出会ったりするのは、なにも在学している学生だけではありません。一般の社会人の方々にとっても大学はそういう場です。本学にはすでに10数年以上も前から国際政治経済学研究科に社会人を対象とするプログラムがありますし、国際マネジメント研究科や法務研究科のような専門職大学院も設置されています。

そこに、2009年度から、「青学オープンカレッジ」が加わりました。このオープンカレッジのもとになっているのは、本学がこれも20年以上前から実施してきて高い評価を受けてきた「公開講座」です。同講座は年に約10のテーマを開講してきました。

2009年の「青学オープンカレッジ」夏期講座は9月から10月にかけて22の講座を開講し、約450人が受講しました。文学・文化論、

政治・経済論に加えて、青山・六本木界隈に最近できた国立新美術館やサントリー美術館などの協力で美術・芸術論の講座が開かれました。「歌舞伎座さよなら公演鑑賞講座」は歌舞伎座に行って歌舞伎を見るプログラムで受講生が殺到しました。講師には、第一線の研究者のほか高階秀爾氏など高名な専門家があたり、加藤重信 前ヨルダン大使など本学出身の外交官3人による外交論もありました。また、「青山リレートーク」というかたちで連続講演会が5回開かれ、青木保 前文化庁長官が「国際文化交流と日本文化」について、またデザイナーの森英恵氏が400人を超える参加者を前に「デザインのある暮らし」と題して講演を行いました。

2010年3月には約20のテーマについて春期講座が開講され、また山種美術館や三菱一号館美術館との連携も始まり、青学オープンカレッジらしい贅沢な「学びの場」がいっそう充実します。

(副学長 土山 實男)

News Index 2009.12~2010.3

2009年12月中旬~2010年3月上旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2009年12月

- 理工学部長谷川美貴研究室の研究レビューがオーストリア化学会学術誌の表紙に選ばれました
- 総合文化政策学部等主催シンポジウム「創造都市・東京の未来」が開催されました
- 理工学部 博士前期課程1年の倉石卓君、保西祐弥君、堀口恭平君が19th International Photovoltaic Science and Engineering Conferenceにおいて、Best Poster Presentation Awardを受賞(共同受賞)
- 第86回箱根駅伝出場 社行会が行われました
- アメリカンフットボール部惜敗し、40年ぶりの1部昇格の夢は持ち越しに

2010年1月

- 第86回箱根駅伝 本学は総合8位でゴール! 41年ぶりにシード権を獲得しました
- 一柳風未さん(文・教育3年)が全日本フェンシング選手権大会でベスト16に!
- 男子バスケットボール部 第85回天皇杯でプロチーム相手に惜敗
- 本学陸上競技部に、相模原市から「称讃の楯」が贈られました

2010年2月

- 総合文化政策学部等主催のシンポジウム「創造都市・東京の未来」がNHK教育テレビで放送されました

- 2010年4月、大学院経済学研究科 公共・地域マネジメント専攻(博士後期課程)の設置が了承されました
- 理工学部電気電子工学科 春山純志研究室が、カーボンナノチューブ超伝導の研究で、米国防科学技術局から研究助成を受けることが決まりました
- 「平成21年度(第8回)学生起業家選手権」にて、国際政治経済学部岩井干明ゼミのチームが奨励賞を獲得しました
- 国際政治経済学部4年生の高橋才将さんがGoogle Japanの「検索ストーリーアワード」に入賞しました
- 第32回神奈川マラソンで陸上競技部の小川恭正さんが優勝しました
- 理工学部電気電子工学科小林秀之准教授と独立行政法人情報通信研究機構の共同研究グループが、超広帯域光伝送システムの動作実証に成功

2010年3月

- 理工学研究科大学院GP外部評価結果シートを公開しました
- 理工学部情報テクノロジー学科の矢吹太郎助教と佐久田博司教授が、「第2回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM 2010)」で優秀インタラクティブ賞を受賞
- デュッセルドルフ大学との学術協定に調印
- 社会情報学部の「スマートフォンを活用した資格取得支援システム」が、MCPC award 2010特別賞を受賞

2010年度 一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2010年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は、昼間部・第二部(夜間部)全ての出願が終了しました。

例年実施している「個別学部日程」に加え、本年度新規に「全学部日程」を実施した一般入学試験の志願者数は、昼間部38,506名、第二部(夜間部)470名、合計38,976名(昨年度40,593名)となりました。

また、本年度新規に文学部英米文学科・日本文学科、教育人間科学部教育学科・心理学科を加えて実施した大学入試センター試験利用入学試験の志願者数は、14,719名(昨年度14,337名)となりました。



2010年度一般入学試験

2010年度 ペアレンツウィークエンド

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/index.html>

2010年度ペアレンツウィークエンドは5月下旬からの開催を予定しており、対象の方には4月下旬以降にご案内いたします。また、ホームページでも随時、情報を更新していきます。

【お問い合わせ先】庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568(直通)

2010年度 オープンキャンパス開催日程

青山キャンパス

- 2010年8月1日(日) 10:00~16:00
- 2010年8月28日(土) 10:00~16:00

※青山学院女子短期大学

8月1日(日)・8月28日(土)同日開催

相模原キャンパス

- 2010年7月25日(日) 10:00~16:00

※青山キャンパス、相模原キャンパスともに、全学部対象です。

予約は不要、入退場も自由です。

詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。



オープンキャンパス 学生ボランティア募集!!

25,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集します(5月中旬以降募集予定)。

学生ボランティア募集要項の配布、申し込み受付などの詳細は、決定次第、学生ポータル等でお知らせします。

ぜひご協力ください。

Club&Circle 1 青山学院大学新聞編集委員会

学生に“青学”をもっと知ってもらうことが、私たちの使命です!

私たちは、学内の公認新聞である「青山学院大学新聞」を制作し、各種イベントの詳細、多方面で活躍する在学生の話題、スポーツの熱戦の模様など、本学に関するさまざまな情報を提供しています。設立は1982年。新聞は年10回の発行です。

当委員会の最大の魅力は、取材を通して、多くの人々との交流の輪が広がること。学生や先生方はもちろん、昨年は青山祭・相模原祭に出演する芸能人への取材も行いました。また、取材することで数々の“感動”とも出会えます。とくに今年の箱根駅伝のときは、シード権獲得の喜びを陸上競技部の原監督や選手たちから直接お聞きし、自分たちも大きな感動を得られました。こうした感動を読者にリアルに伝えることが、新聞制作の醍醐味。“青学”のことをもっと学生に知ってもらうため、「青山学院大学新聞」は、さらに進化を続けます。

(委員長: 社会情報学部2年 三輪 真史)



編集会議の様子



青山祭での一コマ

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課

事務取扱窓口

相模原キャンパス→学生センター・学生生活グループ